

公共空間を活用したダイバーシティ&インクルージョン推進プロジェクト

提 言

2023年03月15日

——提言へ至った経緯——

東北大学未来社会デザインプログラム「公共空間を活用したダイバーシティ&インクルージョン推進プロジェクト」では、老若男女、障害の有無、人種国籍に関わらず誰もが楽しめるユニバーサルスポーツであり、都市の公共空間との親和性も高いボッチャに着目し、公共空間等を活用した体験会という方法を提案し、実践した。

その結果、開始から1年弱で日本全国12か所で推計1800人もの皆様に体験いただき、障害のある方々から障害理解等への無関心層まで様々な方々を巻き込むことができた。また、体験者のアンケートの分析から、公共空間ボッチャ体験会が、心のバリアフリーの醸成に寄与することが検証された。

これらの体験会は、各地において、公共空間を活用したイベントという「場」を用意するまちづくりの関係団体・機関と、そこにボッチャ体験会を提供する「担い手」が手を組むことで開催することができた。そして、「場」の用意さえあれば、必ずしも大きな費用や膨大な準備は必要なく、また学生やボランティア・少人数での運営等も工夫次第で可能であり、それが様々な人をつなげること、楽しませることができることがわかった。これは、本プロジェクトの経験により確立された、ボッチャ体験会開催モデルといえよう。

そこで、我々は、全国のまちづくりやスポーツ、障害理解に関係する自治体、団体、企業等に対して、以下を提言する。これにより、たくさんの人々に心のバリアフリーを知る・考えるきっかけをつくり、「共生社会」の実現に大きく近づくことができると確信する。

— 提 言 —

- 様々な人々がすべて分け隔てなくまちなかで楽しみながら共生する「一緒に当たり前」の社会を築き上げる。
- その実現のための有効な手段として、人が多く集まり誰でも使える公共空間やイベント等の場を活用し、誰でも楽しみながら自然に心のバリアフリーの入口に近づけることができるボッチャ体験会を、全国各地の地元で継続的に実施すること。

ボッチャ体験会の効果的な推進のため、併せて以下も提言する。

- まちづくりやスポーツ、障害理解に関係する団体・機関・企業や自治体の関係部局が連携を深めること。
- 公共空間を活用したイベント等の「場」を用意するまちづくり関連の団体・機関・企業や自治体の関係部局と、「担い手」となり得るパラスポーツ団体や地域・市民・学生団体、企業、自治体の関係部局等は、相互に働きかけを行い、公共空間ボッチャ体験会の実施を追求すること。
- 公共空間ボッチャ体験会には、障害のある方を含め多様な方々に参加してもらいたいこと。そして、その機会を、ボッチャの普及や心のバリアフリー、障害のある方々への街なかへの来訪等を通じた都市の多様化やユニバーサルデザインのまちづくりのきっかけとすること。